

神戸文学館 2011年4月16日(土) 午後2時～3時半

## 生誕 120 年：若き日の吉田源治郎

宮沢賢治/シュヴァイツァー/賀川豊彦の事など

鳥飼慶陽（番町出合いの家牧師）

序 「吉田源治郎とは誰か」 資料：尾西氏による新聞紹介

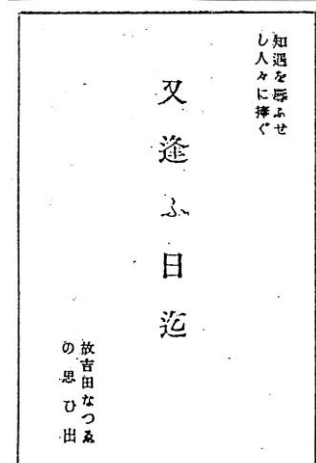
### 1 明治学院時代（大正3年～大正7年）

内村鑑三「柏木教友会」 妹・なつゑの死

山室軍平（救世軍）



山室軍平



西阪保治（日曜世界社）

源治郎の処女出版『児童説教』

### 2 京都伏見時代（大正7年～大正11年）

賀川豊彦夫妻との共感 親密な交流 豊彦の講演筆記著作 生涯の共働共創の友

天文学者・山本一清との「星の観察」 『星座の親しみ』（警醒社、大正10年）

（賀川豊彦・ハル）



（大津・山本天文台）

2011年



（吉田源治郎・幸）





左 山本一清  
(明治22年～  
昭和34年)



右 宮沢賢治  
(明治29年～  
昭和8年)



『肉眼に見える星の研究』(大正11年・警醒社)

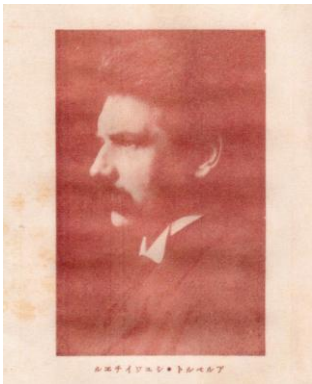
(2版の表紙)

賀川の処女詩集『涙の二等分』所収「星さえあれば」

宮沢賢治への影響 「星めぐりの歌」

草下英明「宮沢賢治の星」 大沢正幸「宮沢賢治と吉田源治郎肉眼に見える星の研究」

### 3 米国留学時代(大正11年～大正14年)



シュヴァイツァー著書初邦訳『宗教科学より見たる基督教』

(吉田源治郎の『原生林の片隅にて』を読む)を収めて)

(巻頭に収められた左の写真は日本に紹介された最初?)

『文化哲学』の翻訳権も得て「雲の柱」に一部翻訳発表

(来日講演・演奏企画実現せず)

(内村鑑三・賀川豊彦とシュヴァイツァー)

シュヴァイツァーのバッハ演奏を直に聴く

(山本一清：大正11年～大正14年 米英独仏滞在研究)

結び 留学を終え「天職」(社会事業：幼児・成人教育)に打ち込む(大正14年～

間所・村島・賀川らと共に大阪で「四貫島セツルメント」(大正14年～

「天使保育学校」「大阪四貫島教会」など創立して幅広い社会事業を展開

賀川・杉山らと共に西宮で「日本農民福音学校」(昭和2年～

「一麦保育園」「西宮一麦教会」「今津二葉幼稚園」「今津二葉教会」など創設。

豊かな知的指導性を発揮して、雑誌「雲の柱」「火の柱」などの編集執筆や著作活動と幼児教育や成人教育の分



野で大きな足跡を残す。

幸夫人共々90歳を  
越えるまで「生涯現役」  
の働きを続け、その息  
吹は「生誕120年」  
を迎えた今も新しく息  
づいている。

